

和泉市市民活動推進支援事業支援対象団体エントリーシート

令和3年11月29日

和泉市長 あて

団体名 特定非営利活動法人
こどもNPOセンターいずみっ子

代表者名 弓削 任代

所在地

電話番号

和泉市市民活動推進支援金の交付を受けたいので、和泉市市民活動推進支援金交付要綱第7条の規定により、関係書類を添えて、支援対象団体の募集にエントリーします。

事業名	おもしろ体験型市場「こども市」
申請コース	(1) 公益活動支援コース <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジコース <input type="checkbox"/> ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
事業費総額	_____ 145,000 円 (うち、対象経費 _____ 135,000 円)
支援金 交付申請額	_____ 90,000 円

1. 支援対象団体と決定した場合、和泉市の後援名義を使用しますか。

(はい) ・ いいえ)

2. 添付資料

- (1) 団体概要調書（様式第2号）
- (2) 規約、会則又は定款及び役員名簿の写し
- (3) 事業計画書（様式第3号）
- (4) 収支予算書（様式第4号）
- (5) その他市長が必要と認める書類

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

団体概要調書

フリガナ	トクテイヒエイリカヅウホウジン コドモエヌピーオーセンターイズミッコ		
団体名	特定非営利活動法人 こどもNPO センターいずみっ子		
団体の目的	子どもたちの豊かな子ども時代を保障し、子どもも大人も育ち合える地域づくりを目的とし、乳児から青年までの成長を見通した各々の世代の体験の場と、異世代の交流の場を創造し、地域社会の発展に貢献する活動を継続して実施する。		
市内事務所の所在地			
	電 話		F A X
フリガナ	ユゲ タダヨ		
代表者氏名	弓削 任代		
連絡先 ※この申請について 問い合わせをしたと きに対応できる方	(連絡責任者氏名) ※		電 話
	フリガナ	マルヤマ ミツヨ	
	丸山 光代		F A X
(住所) 上記事務所以外に資料送付を希望する場合はご記入ください。			
設 立 年 月	活動開始	1993年10月	主な活動地域
	法人格取得	2004年10月	
会報等の発行	<input checked="" type="radio"/> (有) (年間12回発行)	・ 無	会員数
メールアドレス			
ホームページ	https:// izumikko.org/		
主な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業 ・子どもの体験活動 ・異年齢交流活動 ・鑑賞活動 ・講演会、講習会の実施 		
主な活動の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもキャンプ(7月・2泊3日) ・演劇体験ドラマスクール月2回実施 ・「何でもありコンサート」開催(12月) ・和泉市子育て支援地域拠点施設事業 ・異年齢交流野外活動(2月) ・親子クッキング ・鑑賞活動 ・ファミリーサポート事業 		
国・府・市及び 各種団体等から の他の補助金及 び委託実績 (過去3年間の 実績を記載)	年度	名称	金額(円)
	H30年度	子どもゆめ基金	497,000円
		大阪府芸術文化振興事業	186,000円
		和泉市文化協会活動助成	50,000円
	R1年度	子どもゆめ基金	661,915円
R2年度	和泉市文化協会活動助成	50,000円	
	青少年センター子育て学習機会提供事業	132,000円	

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

様式第3号（第7条・第15条関係）

事業計画書

1 事業名	おもしろ体験型市場「こども市」
2 申請コース	(1) 公益活動支援コース <input checked="" type="checkbox"/> チャレンジコース <input type="checkbox"/> ステップアップコース (2) 地域活性化コース <input type="checkbox"/> 地域活性化コース
3 事業の必要性（※別紙添付可）	
①事業を実施する前提となった問題点、課題、社会背景等 子どもが主体となって社会や地域へ参加する機会が少なくなり、異年齢との接点が減っている。また、仲間と協働する体験も貴重なものとなっている。 加えて、大人側へも地域社会で子どもを育む動機を促したい。	
②事業を実施することにより達成しようとする目標、期待される効果 ・実際の金銭の流通を組み入れることにより、子ども自身が出店者としてブースを管理する責任と、必要性を自覚する。 ・仲間と協力することの大切さを体験する。 ・働くという未来体験につながることを期待する。 ・様々な年齢の人と接することを体験する。	
4 事業内容（※別紙添付可）	
①問題点、課題を解決するためにどのような方法を用いてどのような事業を実施しますか。 子どもたちが、自由な発想で出店に臨み、マーケットを形成。そこで仲間と協働すること、様々な年齢の人と接することを体験する。 店の運営やこども銀行業務など、子どもが責任を担う設定が随所にある。 出店参加者、学生スタッフ、大人スタッフ、来場者のすべてが、「こども市」を形成する一員である。 子どもたちの本来持つはつらつとした元気な姿、一生懸命な姿に触れることができ、地域社会での子どもの育みの必要性を実感してもらえる取り組みである。	
②実施期間（日時）	2022年5月15日(日) 開店 10:30～13:30（新型コロナの状況によっては短縮もあり）
③実施場所	エコールいずみ アムゼ広場
④主な対象者	小学生以上の子ども
⑤参加予定者数	出店参加：50～100名 （新型コロナの状況によってかなり変わると考えます）
⑥告知方法	チラシ（和泉市内全小学校へ配布、公共施設への配架、等） いずみっ子のHP掲載

5 事業スケジュール	
次期（月） 2～3月 4月末 5月	内容 スタッフ募集、出展者募集と説明会 スタッフ・音響技術者・司会者 打合せ 店長会議、銀行員会議及びビジネスマナー講座 現地下見、確認 こども市当日 8:00スタッフ集合、10:00オリエンテーション、10:30こども市開店 13:30こども市閉店、14:00かたづけ、15:00スタッフ解散
6 審査項目からみた事業の自己PR ※要綱別表第2審査基準参照 (実施事業について、どういう点が優れているかなどを審査項目ごとに記入してください。)	
① 公益性	子どもの豊かな環境の創造は、地域及び社会の重要な課題である。当事業は、広く市民を対象とする、子どもに着目した活動を提案するものであり、子どものみならず、関わるおとな、とりわけ主体的な子どもの活動へ参加の機会が少ない若い世代への働きかけが、全世代への相互作用の循環を促す事業であると自負する。
② 継続性	子ども自身が得る達成感や充足感は、子どもと保護者の幸福な原体験となり、社会を形成する市民が、次の世代においても子どもの主体的な活動の継続を願う動機を生むことを狙う。 又、開催日は、多数の市民が子どもたちの活躍に臨場する機会となり、新たな波及効果についても期待する。 財源確保については、常に市民活動の課題ではあるが、自主財源に加え、多方面との連携情報の収集により補うことに務める。
③ 実行性	未来に繋ぐ子どもの交流体験を目的とする当事業では、当日を迎えるまでの過程において、子ども店長が集結する店長会議など、子どもの参画を促す仕組みを重視する。 団体構成員は、子どもの体験交流の経験年数を有する者が多数在籍し、対応を担い、子どもたちの安全を守りつつ自主性を重んじ、多くの異なる年齢の人たちと関わる活動を可能とする。 経費については、適切な予算を申請するとともに、費用対効果の観点から、必要最小限の費用をもって最大限の成果が得られるよう努める。
④ 協働性	子どもの交流体験に注目した当事業を実施する過程において、出店する子どもたちは独自の発想を持ち寄り、話し合いや工夫を重ね、協働する魅力と成長する自身への魅力を実感し、関わるおとなをも魅了する。加えて、次世代を担う若い世代の参画など、幅広い世代の活躍の場面があり、地域社会の成長へと繋がるものと期待する。
⑤ 公開性	当団体のHPに掲載。出店募集、開催のお知らせと2回チラシを作成し、和泉市内小学校全児童へ配布。及び公共施設へも配架する。
⑥ 発展性 (先駆性・ 展開性) (集客性)	多くの市民の来場がある。 参加した多くの子どもたちは「またやりたい」という感想を持ち、子どもたちの躍動感や次に繋がる想いを感じる。 子どもの市場体験は各地で散見されるが、「こども市」のように子どもたちが発想から運営まで主体性を持って活動するのはまだ少ないと感じている。

この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。

様式第4号（第7条・第15条関係）

収支予算書

事業の名称： おもしろ体験型市場「こども市」

1. 【収 入】

（単位：円）

項 目	金 額	積算根拠
支援金	90,000	和泉市市民活動推進支援金
事業収入	3,000	参加費（100円×30人）
自主財源	52,000	団体会計より及び出店者からの協力金
合 計	145,000	

2. 【支 出】

（単位：円）

費 目	金 額	積算根拠（数量、単価等）
報償費	23,000	ビジネスマナー講師謝礼、音響技術者謝礼、銀行員への参加賞（10人）
旅費	10,000	講師交通費、スタッフ交通費
消耗品費	64,000	用紙代、インク、文具、テープ類、消毒用アルコール、ペーパー、など
食料費	9,000	お茶（200円×40）、講師昼食代（1人）
食料費(対象外)	10,000	スタッフ当日弁当
印刷製本費	27,000	チラシの印刷（11,000枚 A4 片面カラー）、カラーコピー
役務費	2,000	郵便料、指定ゴミ袋
備品費(対象経費)		
備品費(対象外経費)		
合 計	145,000	
対象経費	135,000	

※費目は、別表第3（第10条関係）に記載されているとおりに記載してください。

※備品費（対象経費）には備品以外の対象経費の合計を3で除した額もしくは1品あたり上限5万円で算定した備品費のいずれか低い額を記載してください。

備考 実績報告書の提出時に収支決算書とともに領収書等を添付する必要があります。

※この内容は、和泉市のホームページ等で公表します。